

研究会報告「21世紀シルクロード研究会」(2) 新疆自治区における少数民族の教育と文化の現状

(新疆医科大学) マリア・サキム

——では、よろしくお願いします。

サキム：皆さん、こんにちは。まず、自己紹介から。マリアです。私は、ウイグル族で新疆ウルムチ生まれの者です。私は67年に新疆大学の化学学部を卒業しました。ちょうど66年に文化大革命におつかつて、それで「再教育」という政策で田舎に行って、そこで4年働きました。72年から中国で大学が回復されました。

その時、新疆医学院に教師として来て、それからずっと新疆医学院の基礎学部の化学教研究室にいましたが、1985年、新疆ウイグル自治区政府が日本に留学生を派遣しました。その派遣は、新疆政府とこちらの私立大学協会の契約で行われたもので、第1回目としてこっちに来ました。2年間神奈川大学に留学して分析化学をやったんです。そのあと、向こうに戻ってしばらく仕事をし、せっかく研究をやっているののでふさわしい研究テーマを探しました。

新疆地域には、私たちウイグル族のウイグル伝統医学というのがあります。歴史も長いです。私は、ウイグル医学の生薬の化学分析を系統的にやっていないことが分かって、その分野に入ることを決心しました。そのために90年に再び日本に来て、東京理科大学薬学部で生薬の化学成分分析を少しと漢方とウイグル医学の比較研究をやってきました。

94年に国に戻りまして、新疆医学院で研究しながら自分の昔の仕事、教師の仕事をしています。94年に戻って来てから日本のある製薬会社と共同研究をやっていて、そのために毎年1回日本に来ることができました。1996年、富山で国際伝統医学シンポジウムがあって、そこでウイグル医学の

紹介をしてシンポジウムに参加しましたが、そういうふうに関与している者です。

今日はお招きをいただいて、うれしく思っています。新疆のことを世界に、日本に知らせることが私たちにとってとても大事なことから喜んでいますが、正式に原稿を書く準備をする時間もなく、ただ新疆の教育を中心に自分が直接触れた、直接体験したことで資料を見て記憶に残ったものだけお話しさせていただきますが、よろしくお願いします。

——政治協商会議の話をお願いします。

サキム：そうですね。全中国の政治協商会議という大きな組織があります。今年（1998年）が新疆政治協商会議の8回目の会期です。それに、今年私も新疆の代表として選ばれて、今年1月に会議のために1回向こうに戻りました。1月8日から10日間ぐらい開きましたが、その会議に参加し、そこで常務委員に選ばれて、今政治協商会議のメンバーでもあります。

1 新疆の教育制度の発展

サキム：では、早速話に入ります。新疆の教育という話が出ると二つの言葉が出てきます。一つは「旧学校」、もう一つは「新しい学校」という言葉。旧学校というのは古いということで、昔ウイグル族はイスラム教を信仰したからイスラム式の学校のことを旧学校、古い学校と言います。科学的、新しい学校のことを新学校と呼びます。

新しい学校が新疆に入ったのは1880～1890年ごろのことでした。当時、個人やその時の資本家、金持ちが、自分が商売で外国に行って、トルコ、ロシア、ほかの所に行って新しい教育を見て、私

たちの国でもそういう教育を広げたいという思想がありました。みんなご存じだと思いますが、カシュガルがあって、カシュガルから40キロメートルほど離れた所にアトゥシという町があります。アトゥシの資本家がムサバイという有名な資本家と彼らの二人の子、その人達が最初に新しい学校を作ったんです。当時、新しい学校の先生になる人間がいなかったから、その人がトルコから1人の先生をお招きし連れてきた。その先生が学生に教えながら教師のコースも一緒にやりました。それが最初、1890年のことです。

そのあと、新学校を作る潮流が広がってイリにも学校を作った。つづきましてトゥルファンでもいくらかの商売人が外国に出てロシアのタタルスタンまで行って、カザンから2人の先生をお招きしてトゥルファンでも新しい学校を広げたんです。この学校の影響で、それぞれの道で金を持っている人がアクス、クチャール、大きな町でそれぞれ新しい学校を作って、学生が新しい学校に入るようになりました。

30年代に一番繁栄した。どういう影響でこんなに広がったかというと、主要なのは人々の教育に対する熱心さと、その時の盛世才という30年代ごろの新疆の主席、その人がロシアと友好関係を立てていたからその影響で新しい学校が広がったんです。

40年代になってから、ロシアと盛世才の関係が悪くなって禁止されるようになりました。1945年になった時もう1回繁栄した。それは、1945年、46年のイリで、今はグルジャという所で、3区革命、臨時政府ができた。3区はアルタイ、チュウチュク、イリの三つの所のことです。その時に教育が一番繁栄、発展したんです。私は資料で見ましたが、当時1人の教師の給料が政府の副主席の給料と同じくらいのレベルだったんです。最初、政府が教育からやり始めたんですが、政府の寿命がすごく短かったんです。

そのあと、1949年新疆が平和的に解放されて、共産党が新疆に入ってから、49年から教育が全中国と同じく普及されました。当時、共産党がそれぞれの町、田舎まで、人々が集まっている所で学校を作り始めたんです。それから、教育が正式に普及されました。

当時の教育体系はこういうふうに行いました。一つは漢民族がいる学校。もう一つは、ウイグル族が中心になるウズベク族、タタール族、キルギス族というトルコ系民族、そちらの少数民族が入る学校があったんです。二つの教育、一つは漢民族の学校、もう一つはウイグル族の学校。それはウイグル語で授業をするんです。カザフ族もキルギスもウズベクもみんなウイグル語で授業を受けるようになった（カザフ族が中心に住んでいるところにはカザフ学校もありました）。

当時の教育の体系は、漢民族の学校が6・3・3で小学校6年、中学3年、高校が3年です。しかし、ウイグルの場合がそうではなくて、小学4年、中学3年、高校3年でした。ロシアでもそういう体系で教育を行っていたから、この体系はきっとロシアの影響なんです。

私は52年に小学校に入ったんです。私たちが当時使った教科書は、大体ロシアからこっちに送った教科書で、ウイグル語にちゃんと訳されて、レーニン、スターリンの絵とロシア式の絵がいっぱい入った教科書でした。

50年代がちょっと過ぎると、新疆教育委員会が小学校の教科書を作るようになりました。小学校の教科書の基礎は、ロシアの昔使った教科書を基にして作っていました。ロシアの教科書を使うのは60年まで続きました。私は56年に中学校に入ったんです。当時、私たちが使った教科書は、全くロシアから送ってきた教科書でした。1960年ころから中国語の教科書をウイグル語に訳して中学校、高校が使うようになりました。しかし、文学だけは自分が作りました。それは、中国の文学と

ウイグルの文学が全く違うものだから。

60年代になると、ロシア、旧ソ連と中国の関係が悪化して、すぐ教科書を送るのをやめさせて、それで翻訳の教科書になってしまいました。ただ、小学校と「語文」の教科書だけは教育委員会が自分で作るようになりました。

66年になってから文化大革命が始まって、それまでは小学4年、中学が3年、高校が3年、そういう体系で行ってきましたが、文化大革命が始まってからはめちゃくちゃになって、大学がストップされたが、しかし小学校は1年あとからやり始めたんですけれども、その時から小学校の4年という制度が5年に変わった。その理由は、私たちも中国の一部だから全中国と一致するという思想かもしれません。そういうことで、文化大革命のあと、最初に5年に変えてそれから6年にするという目的で、67年、文化大革命中に小学校の5年制の教科書が作られ始めた。あの時、小学校は5年、中学校が3年、高校が2年になったそうですが、全部で10年の体系なんです。それから、86年から小学校の教科書が6年に変わったんです。小学校6年、中学校3年、高校2年と全部で11年になりました。

2 大学の現状

サキム：私たちの大学の話がこれから出ますけど、高校を卒業してから大学を受験する。大学に入った時、ウイグル族を中心に、少数民族の学生は専門に入る前に1年中国語を勉強します。漢民族が4年で大学を卒業、私たちは5年で卒業する。医学部は、漢民族が5年で私たちが6年で卒業できる。

大学のお話をちょっとしたいんですが、新疆には4年の大学レベルの学校が17、専門学校レベル、短大みたいな学校が12、合計29の大学レベルの学校があります。一番大きいのは新疆大学なんです。新疆大学は1935年に正式にできたものです。

当時は大学レベルではなくて、唯一の師範学校みたいなかたちでできました。そのあと、新疆学院という名に変わって、61年に新疆大学という名称になりました。それが一番大きいものです。その次は、各専門によって新疆医学院、新疆工学院、新疆農学院、財經学院、石油学院、タリム農業大学。それから、82年に師範大学もできました。その前は、師範専門は新疆大学が育ててあげたんです。

一番大きい新疆大学には、今14の学部があります。少数民族の学生の数は62%なんです。新疆大学のスタッフは2,800人ぐらいで、そのうちの少数民族が1,300人ぐらいなんです。そのほかに、最近新疆では成人教育というものが生まれましたが、中国語で「成人教育」と書きますけど、成人教育は一つの教育の部門として扱われています。80年代ごろ、文化大革命が終わってから大学が回復して、実は成人教育というのは自分のレベルを高めるために役人が受験して入る大学なんですけど、70年代、80年代から大学に入る人数の制限があるからかなりの人が受験で落ちて、そういう人がこういう学校に入るようになった。成人大学は、大体私費のかたちを取っています。今、新疆医学院にも成人大学院というのができましたし、新疆大学で一番大きい成人教育学院も成人大学というかたちになっています。

大学の場合、さっきもお話ししましたように、1年ちゃんと中国語を勉強して、2年から基礎、専門に入ります。各大学ではウイグルの先生も教えるし、漢民族の先生も教えるし、私も大学でウイグルの学生にも中国語で授業します。それは決まったものです。しかし、新疆大学だけは80年代ごろに1年中国語を勉強しますけれども、2年からウイグル人はウイグル語で授業を受けるようになった。その原因は、みんな卒業してから大体カシュガル、ホタンという田舎のほうで、全部ウイグル族が中心に集まっている所の中学、高等学校

の教師になるものだからウイグル語で授業を受けるようになったんです。最近、また中国語で授業をするようなかたちになりました。しかし、新疆医学院、新疆工学院はずっと前から中国語で授業をしています。

私がウイグルと言ったのは少数民族のことですが、96年に大学のウイグルと漢民族のレベルを比較する調査を行ったんです。結果は、この幅が、差が大きくなってきたんです。漢民族の教育が上がって、ウイグルの教育が下がったんです。その原因はいろいろありますけど、一つが中国語で授業をするから中国語のレベルのせいで、多分落ちているのではないかと検討することもあるって、もう一つの原因は基礎知識が足りないということももちろんあります。

多分、基礎知識が足りないせいかもしれませんという意見で、今度は97年から高校が3年になりました。

去年97年、大学受験の時、私も新疆医学院に入学する学生を選ぶ仕事に参加したんです。当時、高校が2年から3年が変わったら受験する学生がいなくなると思って、少数民族が大学に入るのが1年ストップするという意見があったそうです。実はそうではなくて、社会からも受験に参加する学生がいるから試験を行いましたけど人数を減らしたんです。毎年いろいろ医療専門、予防専門、薬学専門ということでウイグルの少数民族を200人くらい受け入れます。去年は90人受け入れました。それは、高校の2年の制度が3年になったことによると思っています。今年98年からまた順調に行います。

教育体系、政策では、共産党が入ってから学校は全部国費というかたちを採ってきたんです。それをずっと続けてきて1965年、大学では文化大革命のちょっと前に大学生の経済レベルによって少しお金を取るように、例えば食費、教科書代は何%くらい取るように、そういう制度を行いました。

た。去年受験生を選ぶことに参加したんですが、去年、97年から大学は私費というかたちに変わりました。師範大学は例外で、他の大学は私費。しかし、私費といってもその中で何%か国が負担するというのも残されて、大体学生は日本みたいに自分がお金を払って大学に入ることになりました。例えば、ホタン、カシュガルというような田舎から来た、生活レベルが低い人に援助を出す政策も一緒に行っています。しかし、これは去年から始まっているからこのあとどうなるか一つ問題です。特に、田舎の生活水準が低いから授業料を払えるかどうか、それもちよっと問題になっています。この結果はこれからですね。

3 留学制度の変遷

サキム：次に、新疆教育における留学のことをお話させていただきます。中国の新しい学校の教育の中で留学は何回も行いました。最初、留学というのは、さっき私が言いましたけど、アトゥシのムサバイが1人をトルコからお招きして教師になってもらって、その時教師の問題があってから、1884年8人をトルコに留学させたんです。それは、個人を自分のお金で留学させた。その8人が留学に行って、戻ってきてアトゥシのいくつかの所の学校で授業をしながら教師コースを開いて教師を育てたんです。それが第1回目なんです。

そのあと、第2回目の留学が、それもムサバイという方が自分の孫たちをトルコとドイツに留学させたんです。1906年に、ムサバイがドイツから新疆に工場の設備を買ってきた。イリに今一つ大きな工場がありまして、馬や牛や羊の皮を加工する工場なんです。その工場のために知識人、技術者が必要だから、自分の孫たち、親戚、親しい人の子供を留学させた。この工場は1909年に出来ました。20人ぐらいの第2回の留学が行われたんです。

それから、第3回の留学が30年代ごろ、盛世才

とロシアの関係が親密で、ロシアに留学させた。それは何回も行ったんです。37年か38年、ちょうど盛世才とロシアの関係が悪くなるまで毎年15人ぐらいの新疆の人が留学に出ました。これは3回目の留学に当たります。

それから、4回目の留学が1950年、共産党の時代に、またロシアとの関係がいい時に、51年から毎年高校を卒業した人の中から成績のいい人を選んで、ロシアに、すなわち、モスクワ、中央アジア、タシケント、アルマアタそういう所に留学させた。あれは60年代、ロシアと中国の関係が悪化するまで続けました。当時が一番数が多かったんです。

それで、第5回の留学が1985年、日本に留学生を派遣したことです。60年から80年ころまでは新疆のドアが閉められて外国との交流をあまりやっていませんでした。85年、日本の私立大学協会と政府の協力で生活費を8万円政府が出してくれるというのを今もやっています。12年目を終わりました。今年、13年目に入ります。

日本の留学と同時に、アメリカにも留学することを一緒に行っています。しかし、アメリカに留学したウイグル人の数は日本より少ないです。原因は英語の関係もあります。日本に留学する場合はちゃんと決めた規則があって、1年長春で日本語を勉強させて日本に行かせるんです。しかし、アメリカに行く人は、大体英語を自分で勉強して英語能力を高めてから自分で受験し、出るんです。ウイグルの場合英語の授業がないから、小学校でもないし、高校でもないし、大学でもなかったんです。これからちょっと入れるようになりましただけで、だから私たちの英語レベルは大体ゼロなんです。留学に出た人は、自分が努力して出たんです。大体、大きな留学の動きというのはその5回のことと考えています。

留学の役割りについてお話をします。その1, 2, 3回の留学は新疆の教育に力を入れたんです。最

初、学校もない時に留学をしてきた人が教育に力を入れてだんだん広がってきたんです。30年代ごろ、ロシアと関係が良くなって、その時に留学した人達が3区革命の政府の期間に力になった。特に、教育を大事にして教育から始まったから教育に力を入れて、経済とかそのほかのところでは、ロシアに留学してきた人達が大事な仕事をして政府の仕事がうまくいくように力をいれました。

それから、50年代に留学した人は、今新疆の各分野で活躍しています。60年代から文化大革命等事件が多くなって、あの人たちはその時は大ショックを受けた。しかし、そのあと回復してから各分野の権力を持っている長官になっている人は、大体ロシアに留学した人々です。今、副主席まで、各分野の役所のトップの人は、大体留学して帰ってきた人が中心になっています。最初、51, 52年に行った人も、今年60歳だから政府の副主席という立場から退職しましたけれど、そのあと60年代に行った人は今55, 6だからその人たちは大活躍しています。

それから、私たちの時代、85年に第1回目に日本に留学した人は、大体戻りました。ウイグルの留学生が戻る率は、内陸の漢民族の戻る率と比べて新疆が一番大きいんです。戻った人は、みんな向こうで、各分野ですごく活躍しています。だから、政治協商会議に私は入った。私と一緒に日本から留学して帰った人が何人も政治協商会議に選ばれて入りました。それは、私たちの役目を果たさせるためにやってもらったのかと思います。日本に今100人以上留学生がいます、私費、国費というかたちで。その人たちが帰ったら新疆の発展に大きな力になることと思っています。

4 公用ウイグル文字の問題

最後の問題は、ウイグルの文字のことをお話するべきだと思います。新疆にイスラムが入る前は、新疆の西域と呼ばれた地域はとても複雑で、

文字もいっぱい、民族もいっぱい、国もいっぱいあったんですが、イスラム化されてからアラビアの影響で、その時私たちの文字もアラビア文字を基礎にして作ったウイグル文字に変わってしまったんです。それは、9世紀カシュガルから13世紀トウルファンまでイスラムが完璧に普及したあと、アラビア文字が優勢になったんです。13世紀の時にモンゴルが支配して、チンギス・ハンの息子のチャガタイが新疆を支配した時に使った文字がチャガタイ語と呼ばれたんです。チャガタイ語のかたちは、アラビアのアルファベットを基礎にした、ちょっとアラビア語とは違うものです。アラビア文字ではなくて、アルファベットはそれを基にした文字です。14世紀から90年代までずっと、新疆で使われたのはチャガタイ文字でしたが、ずっと改革されてきました。

今、私たちが使っているウイグル語の文字はチャガタイ語、もともとアラビア語のアルファベットを基礎にして変わってきた文字なんです。この文字の改革も、新疆ではものすごく激しかった。それは、ずっと前からロシアと新疆の関係が近いものだから、40年代のころはロシアは社会主義なんです。当時ロシアで文字改革があったんです。その時、ロシアに住んでいる中央アジアのウイグル、ウズベク、そういう人のために1回文字を改革するために、1925年にアルマアタで第1回言語学術討論会が開かれました。その改革は、アラブアルファベットを基礎とするウイグル文字を、ラテンアルファベットのウイグル文字に変えようという提案でした。その影響で新疆もそういう文字に変わるという動きが何度かあったんですが、どういふわけか分からないけれどそれもやめられて、それから新疆で2回目の文字改革が50年代にまた始まりました。

当時はロシアの影響を受けて、文字がキリル文字というロシアの文字で、言葉はウイグル語発音にするものですが、その言葉で作られた教科書が

どんどんロシアから新疆に入ってきたんです。

それをやっていると中央政府、中国政府のほうから反対されて、それはロシアのものだから私たちは中国だから自分の文字を使うようにしますという意見があったそうです。それで57年にもう1回文字の改革が始まったんです。(1956年新疆に自治区言語研究委員会が出来ました。)

当時の提案はこういう提案でした。「ウイグル新文字」という題名で、中国語の漢字を読めるためにラテン文字で表すピンインに変わるように提案されたんです。当時、ウイグルには32文字がありました。その文字をピンインにして、それから中国語のある漢字の発音を読めるように、ジー(zh)、チー(ch)、シー(sh)という三つの文字を入れた。やっと1964年にラテンアルファベットを基礎のしたウイグル新文字の実行が承認されました。

それから、小学校は新ウイグル文字を使うようになりました。60年の頃、私は高校なんです。私たちも、何回か新しい文字を勉強するコースに参加しました。66年に文化大革命に入ってしまった。文化大革命の時、すべてがめっちゃくちゃになって、学校も教えるけど、正式に真面目に教えないから先生も真面目に教えてあげないし、生徒も真面目に受け取れないし、そういうことで新しい文字の普及にマイナスになってしまったんです。だれも新しい文字を読めない状態でした。年寄りと私たちみたいな人はみんな古い文字に慣れたものですから、慣れるということはものすごく勢力争いものだからみんな新しい文字を読みたくなかったです。それで、文化大革命中だから、学生はそんなに真面目に勉強しないことから、先生は宿題を見る時にとても困っていた。先生達は古い文字になれていたせいもある。学生もあまり真面目にやらないし、文化大革命の時知識人がやられた結果、みんな勉強に打ち込まなくて、そういうことで新しい文字の普及が成功しなかったんです。

そういうままにずっと続けて、それから文化大革命が終わってから大学を正式に元に戻したんですが、その時に新疆では新しい文字のことが大きな問題になってしまいました。それで、二つの派になってしまったんです。一つの派は、新しい文字は要らない、やめて古い文字に戻る。新しい文字をやるという人たちは、文字改革委員会、その人だけです。しかし、普通の人たちがみんな嫌がってしまったんです。その原因は、文化大革命のせいだと私は思っています。

それから、もう一つは、新しい文字の意味、特徴など、またはどうして私たちが新しい文字に変えるのか、ということがよく宣伝されなかったと私は思います。どうしてかというと、文字改革委員会のトップの女性は私と関係が良くて、私たちは76年頃農村に一緒に行ったんです。その時、私は聞いて「どうして私たちは新しい文字に変えるのか」と言ったら、いい説明をしてくれて、「今、これから世界の発展に追いつく、コンピューターや何かすべてが英語や何か全部左から、私たちの文字だけが右から。そういうことでも、新しい発展に追いつかない点があるからこれからの長い将来を見ると新しい文字に変えるのが一番やるべきことだ」と説明されると、私はすぐ納得してしまいました。

結局、1982年自治区政府が古いウイグル、カザフ文字に戻る事を承認した。

——今は？

サキム：今は古い文字です。

——チャガタイ文字？

サキム：アラビア文字を基礎にしたチャガタイ語、チャガタイ文字を利用した、それも時代によって変えられた新しい文字なんです。あの時生まれた子供は20歳になるでしょう。20年間は、私たちの教育の中で文字のことでは不幸な時代でした。それで、82年からまた古い文字に戻りました。それは、ウイグルの教育や別の分野の発展に悪い

影響を与えたことと思います。もしかしてそのまま続けてやっていれば、ちょっとでも前に進むことができたのではないかと私は思っています。それが文字の話なんです。今は古い文字に戻って使っています。

それで、10年、20年、新しい文字を使った小学生は学校を出てずっと新しい文字を使ってきて、それから、82年にまた古い文字に戻ってから小学校で古い文字をやり始めて、あの途中の人はかわいそうなことになってしまった。

それから、これに含めて、私たちウイグル族の最大の欠点の一つとして文字についてちょっとお話をします。ウイグル族というのは、前から記録に残す習慣がなかったんです。だから、私たちの歴史の不明なところがいっぱいあります。ウイグルの新疆の歴史といっても、中国の歴史の本に記録されたもので、自分でちゃんとした記録がなかったことは、また私たちの一つの不幸なところなんです。

ここで、印刷の問題もあります。スウェーデンのキリスト教を宣伝する団体が1890年ころに新疆に入った。37年、新疆から追い出されたんです。その人たちが、新疆のカシュガル、インサール、ヤルカンドそれから今のカシュガルのトゥクザックという所、その四つの町を中心にキリスト教を宣伝するために活動を行ったんです。

宣教団は、その時に印刷工場をそこで設立した。あの時の印刷はチャガタイ語でした。そのあと、印刷が発展したのは30年代ごろ、盛世才とロシアの関係が良い時、ロシアから印刷工場の設備を運んできて新疆で印刷工場ができたんです。印刷の歴史はそういうものなんです。共産党が入ってから出版社や何かできて印刷がうまくいっているんです。

教育の歴史の中で私に影響を与えてくれたのは、ロシアが50年代ごろに新疆に対して行った教育なんです。あの時、専ら新疆のためにウイグ

ル文字で教科書を作って送ってくださったんです。そのほかに、例えば世界の有名なフランスのモーパッサン、バルザックなどの小説、それからロシアのクラシク、トルストイなどの小説をウイグル語に訳して新疆に送ってくれたんです。だから、60年代の私たちみたいな人の知識はロシアの教育の影響で広がりました。世界のことを知ることになったのもそのおかげだと思っています。ロシアに対して、歴史をちょっと見ると私たちはいい印象がないけど、しかし、その点で50年代、60年代までロシアが新疆に対してやったことは本当にありがたいものなんです。

Q&A

言語状況と中央アジアの交流について

Q ウズベク語とウイグル語との関係ですが、さっきのあんなのを除けばほとんど同じと理解していいんですか。割合通じる？

A 文字は大体通じますけど、言葉の発音がちょっと違うんです。しかし、私たちはウズベク人と付き合っていますが、大体99%お互いに話が通じます。

Q あなた方はトルコ人と付き合っても、相当80%ぐらい通じるのでは？

A 私も外語大のトルコ人とちょっと話をしたんです。何もトルコ語を分からない人でも、ウイグル語とトルコ語の間で20%、30%は通じる。

Q ウズベク語ははるかに近い。

A ウズベク語がもっと近い。

Q もう一つ、初歩的なことで、あなたは新学校を中心とした話を大変詳しくされていて分かったんですが、もう一つイスラムの旧学校系が当然あるわけで、モスクもあれば学校もある。留学の話で新学校の留学のほうをされたんだけど、メッカに行く人もいます。そういうふうな留学の問題はどんなふうになっていますか。

A 昔の古い学校、イスラム式の学校が、昔新疆

ではやったんです。その後新しいものが出てきたんです。共産党が入ってから宗教の自由があるので、最初に50年代、51、52年、私は52年に小学校に入ったので、私が入った時は1年コーランの授業があったんですが、2年目からなくなったんです。そこまでやってたんですが、そのあと正式に学校にコーランの授業がなくなってしまったんです。

留学がはやった時代、80年代の時、パキスタン、エジプトに留学させるという話があり、新疆から高校を卒業した子を1回目に5人派遣しました。そういうことを2年か3年続けていました。そのあと、今はやめさせたかな、あまり行ってないと思います。

Q パキスタンと今おっしゃったので、私はパキスタンの首都イスラマバードに住んでました時に、ウイグルの人が遊びに来たんです。この人はパキスタンの首都イスラマバードにあるイスラム国際大学という所に留学してました。パキスタンの宗教面での教育の影響は大きいと言ってたんですが、今でもすごく関係はありますか。

A 今、パキスタンと新疆の関係は深いんです。どうしてかという、一つは商売。近いのでカシユガルからすぐ入るんです。もう一つは、私の今やっている専門が伝統医学なんです。伝統医学の調査に私はいつもホタンに行くんです。生薬を袋に入れて売る「80袋屋」は、伝統的な私たちの文化なんです。それを訪ねにいつも毎年1回ホタンに行きます。どこから持ってきたのか、ホタン産のものと外国から入った生薬を尋ねます。パキスタンから入ったものが一番多い。では、どうやって手に入るのかといったら、その商売人が、「私たちは2週間に1回パキスタンに行ってこっちで売る生薬を持ってくる」と言うのです。「パスポートはどうか」と言うと、「パスポートは何か手に入るよ」という。(笑い)

Q パキスタン経由でギリシャのユナン医学が入

って……。

A ウイグル医学というのは、もともとがギリシャのユナン医学と似ている体系です。だから、パキスタンの生薬とウイグルの生薬はものすごく共通するところがあるから、いつもパキスタンに行き生薬を買ってきてウルムチで、ホタンで売る。

Q パキスタンにいた時にギリシャ医学の医者にいろいろ……。

A 私たちは全く同じ体系です。それから、留学のことも80年に政府が派遣したんです。商売人がいつも行ったり来たりしているから、私費で、自分のお金でパキスタンの国際大学に行く人も増えているんだと思います。

Q 生薬のことで、モンゴルとかチベットなんかの生薬というのは共通するところがありますか。

A あります。ウイグル医学の生薬の名前には、後ろに現地の名前を付ける、例えば何チベット、何インドという名前で使うものが一番多いです。それは、チベットやインドのものをこっちに持ってきて使っているものにそういう名前が付けられた。私は、今ちょうどチベット医学とウイグル医学の比較研究をやっている。新疆地域というのはイスラムが入る前は仏教でした。

私達は今仏教ではないけど。実は、新疆に仏教がはやった時代もあったので、チベットの医学の影響がたしかにある。ウイグル医学の歴史を見ると、何年かチベットに長く滞在してそこで治療を行ってきた人の名前を、例えばアフメット・チベット、何チベットと名付けていることもありました。

Q 話が違いますけども、例えば青海などでは、小学校、中学校の教育を聞いてみますと、チベット人やモンゴル人に対して小学校の時から中国語教育をやりますね。大体、チベット語、モンゴル語の時間と中国語の時間同じですね。1週間の時間を見ると同じぐらいやる。ですから、もちろん英語の教育はできないんですけど、ウイグルでも

やはり小学校から中国語教育をやりますか。

A もちろん。私の時代に小学校で中国語の授業はなかった。中学校に入ってから始まったんですが、今、最近小学校からその授業が増えています。さっきちょっと忘れたんですが、中国語レベルのことで小さい時から中国語を勉強させたら大学に行った時なんかには授業を受けるのもうまくいくという雰囲気、特にウルムチに出ています。だから、新疆に一つのトップの中学校があり、大学に入る率も高いんです。3年前から試してみるかたちでクラスの一つ作ったんです。そのクラスに入るのは全部ウイグル族、少数民族の子供なんです。授業を小学校1年生から中国語で教えるんです。ただ、文学は違う部門だからウイグル語で教えるんです。今、私の弟の子供もその学校に入っていますが、あのクラスの授業量が多くて、7歳で入った子供があんなに一生懸命夜11時まで勉強しなくてはレベルに追い付かないんです。

Q 言葉の勉強をするんですか。

A 言葉ではなくて、理科の事業を中国語で行います。そういうことをやって試したんですが、それをまねして今いくつかの中学校でそういうクラスを提供しています。それは、子供の将来、大学に入ることと社会に出るときも中国語が分からないと仕事もあまりうまくいかないという点で、長い将来を考えて、今、ウイグル人が子供をそういう学校に、そういうクラスに行かせる雰囲気になっている。

Q 細かいことをいいですか。先程、1890年にトルコから先生を連れてきたムサバイさん、これ、ちょっと私聞き取れない、われわれはアクスと言ってきたんだけど、それでいいんですか。

A いえ、アトウシ。

Q カシュガル近くとおしゃったんですね。

Q 漢字ではどう書きますか。

A こう書きます(阿图什)。ムサバイという方は2人の息子があったんです。1人がユサンバイ、

1人がパウドンバイ。その2人にもいっぱい子供がいて、留学されたのは二人の子達でした。イリにあった皮を加工する工場はユサンバイ皮工場と名づけられた。50年代に政府に取られて今は政府のものです。

Q やはり、皮とか何かがムサバイさんの主な商売だったんですか。

A 1906年にユサンバイとパウドンバイが全て財産をそっちにを使ってドイツからその設備を持ってきたんです。

大学の入試、言語と費用について

Q 今、大学は全部自費になってしまったんですか。

A そういう政策なんですけど、しかし100%ではないんです。

Q 今、いくらですか。

A 今、医学院の場合、私が合格証を書いたんですけど、授業料が400元、宿舍が二つ種類がありまして、立派なほうが1年400元で普通が200元、それから教科書代が150元で、そのほかに医療保険何々、いっぱい。それで合計してみたら、1年の食事代も含めて3千元ぐらい最初に来た時に払わないといけな。

Q そうすると、月にすると大体250元ですね。それで、2年次、3年次もほとんど変わらない？ 入学金というのがありますか。

A それは、去年やっているものだから2年あとにどうなるか今分からない、(笑い)初めてやったものだから。学生に知らせを送る時に私が書いたんです。だから、私はよく覚えています。

田舎から来る学生に貧しい人もいますが、彼らはどうなるのでしょうかと思った事もあります。

Q 田舎から来た貧しい人に対しては、さっき言われたように、多少補助金を出してくれるんでしょう？

A 出すんです。去年私たちがそういう仕事をや

った時、学生の資料に生活レベル、家族が何人ぐらいいるか、収入はいくらか、全部書いてある。それを見てその中から何人かを選んで、教育委員会にその学生に補助金を出さなければならないという報告を書いたんです。そういう場合もあります。

Q 大部分はどういう出身の人が多いんですか、学生の親たちが。

A 大体、職員が多いでしょう。

Q ちょっと前の話に戻りますけど、完全に自分でお金を出す人と、多少国が補助する割合というのは大体どのくらいですか。

A 割合は、最初決めたのは補助するのが20%くらいではないか。それから、学校に入ってから一つ制度があります。それは、成績を見てそれで奨学金を出すということもあります。それがなければ大学にはいられないでしょう。例えば、成績、点数何点以上が1等の奨学金、これぐらいで2等の奨学金、そういう奨学金の制度があります。

Q 今のような制度は、北京から「こういうふうにしなさい」というものがあるのですか。

A そう。今は全国で一致しています。

Q この間の9月からですね。

A 去年の。

Q 全国一致した教育。

A それは北京政府と一致するものです。

Q その場合、例えばウイグル族と漢族で授業料が違うとかそういうことはないんですか。

A ないでしょう。

Q 優遇政策みたいなものはないんですか。入学点数は、従来の……。

A 入学点数はもっとあります。しかし、お金は同じではないか。

Q 学校によっては、成績の悪い人が入りたい場合はお金を割り増しして授業料を払えば入れるという制度はありますね。(笑い)

A 点数が足りなくて学校に入りたいという学生

のためにクラスができたんです。そのクラスを私費でやって、それから私費というのが今まで広がってきた。最初が80年代のことでした。点数が足りない人は学校に行けないでしょう。学校に行くためにそういうクラスをいっぱい作って、それでああいう人を受け入れたんです。

Q 今はもうないんですか。

A 今、成人教育というのがそういうふうになってしまった。

Q それは大学生ではないわけですね。

A いや、ちゃんと大学生。しかし、4年行くわけではない。しかし、ある学校で点数が足りない人を受け入れた大学の例もあります。この成人教育というのは、学校というのは3年です。

Q 話変わりますけど、61年から81年に行われた新しい文字に導入という時に文字改革委員会としか言われなかったんですけど、それは具体的に何人とかどういう方々が委員会に……、何かトップの方とだいたい……。

A 新疆に文字改革委員会というのがあります。それは一つの組織です。それは文字を研究する機関なんです。その人たちがいろいろ文字の研究や歴史の研究をやっています。その人たちが提案を作って政府に渡したんです。もちろん、文字を改革するということは政府の政策なんですけど、そのグループ、その委員会が提案を作ったんです。そこから全新疆に新しい文字を普及するという提案を政府が承認して、政府から命令が出た。それは政府の機関なんです。

Q ちょっとまた元に戻りますけど、例えば内モンゴルでは内モンゴル大学へは言葉の関係がありまして、試験が漢語、中国語であるということでモンゴル人は非常に入りにくい。新疆ではそういうことはありますか。

A 1978年から全中国統一受験政策をおこなっていたのに、新疆は優先政策のおかげで全自治区範囲で受験を行っていた。1984年数学と政治のテス

トは統一された。86年に地理、87年に生物、88年に歴史、89年に化学とすべての科目が次第に全国と統一された。今文学だけ新疆がテストを作るんです。そのほか全部、中国全体的に一致したんです。

もちろん、ウイグルの学校と漢民族の学校の差があるから点数で差が出てくるんです。今年はウイグルの中でも500点を取った人がいました。最初内陸（上海、北京など）から大学の先生が来て選ぶんです。点数が高いほうから取っていく。それから、新疆の場合に入ります。新疆の場合は新疆大学が一番トップなんです。しかし、医者になるために新疆医学院、私たちの大学に入る人、希望する人が多いです。だから、新疆医学院の点数はもっと高いんです。今度、新疆医学院に500、400点の人がいっぱい入りました。

Q 自治区以外と以内ではどのぐらいの比率ですか。全国から来る人と新疆……。

A 全国から新疆に来る人はいないかな。（笑い）新疆のレベルがそんなに高くない。

Q 満点は800点ですか。

A 満点はいくらかな。（笑い）それは、全部1科目満点が100だから8科目、数学、物理、化学、文学、政治、中国語、歴史、800点です。

Q 先生、試験の問題は中国語でできているわけでしょう？

A 漢民族が中国語で、私たちがウイグル語で。

Q 問題は同じけども、物理とか全部翻訳してある。

A そうです。それから、今、中国語の学校に入ったウイグル族の子供もいる。将来を考えてだんだん増えている。そういう人が漢民族と一緒に同じ現場で中国語で受験をする。しかし、その人にとって優先する政策があります。

Q 逆は、絶対ないでしょうね。漢民族の人でウイグル語で受けるというような人は、それはないでしょうね。

A イリ地方に住んでいる回族が、ウイグル語がうまいからウイグル語でする場合があって、去年私たちは2人受け入れました。

Q 先生、その時の一番僕が気になるのは歴史ですが、ウイグルの歴史ではなくて、漢民族の歴史によって問題が出るでしょう。こういう言い方はおかしいけど、例えば清朝がジュンガル部を攻撃します、そういう言い方で出ます。ジュンガルの立場から見たら新疆はわれわれを侵略してきたと思うでしょう。

A 歴史の件は教科書があるので教科書通りにする。(笑い)

Q それはそうですね。愚問でした。

A だから、問題ない。

文字教育と文字改革について

Q あと、カザフ民族の文字の問題ですけど、ウイグル族はいいですけども、ほかの少数民族で文字を持っている者と持っていない者がいるというのはどうなんですか。

A カザフ族はちゃんと文字を持っています。私たちはよく見たら大体読めるんです。同じ文字もありますし、ちょっと変わった文字もあります。しかし、体系が同じものです。

Q チャガタイではないんですか。

A チャガタイではないけど、チャガタイから変わってきたと思っています。今、もちろん右からのそういう文字。新しい文字に変えた時にカザフ族も変えたんです。今、同じ、当時に戻ったんです。

Q みんな戻ってしまったんですか。

A 今は、みんなカザフ族も戻ってしまった。しかし、カザフ族の文字というのは、私たちが見てちょっと分かるんです。ウイグル文字ではないけど、読むこともできます。

それから、ウズベク語も書くとき、ウイグル語と似ているけど、点が何かちょっと違うような感

じがします。カザフの文字より私たちのウイグル文字に近いです。

Q やはり、文字は民族ではっきり使い分けるんですか。カザフスタンのカザフ族と新疆のカザフ族、いわゆる族としての文字ですか。あと、キルギス、ウズベク、タタール、それは民族として…。

A 民族としての文字だと思いますけど、ロシアのウイグル人がウイグル語でキリル文字を使っていた。

Q カザフ族については、カザフスタンのカザフと同じですか。

Q いや、違います。

A 新疆のカザフ人が使っている文字が旧文字です。そのあとは、ロシアの命令で文字がキリル文字のかたちになった。しかし、この文字ももちろん知っているはずではないですか。

Q それから、言葉のことであれですけど、お金を持ったり、少しでもよくなろうとする人は子供に中国語を勉強させるということですけど、中国人側でウイグル語を一生懸命勉強するとかそういうことはないですか。例えば、向こうから来ている幹部とか、どの幹部でもウイグル語を積極的にやろうという傾向は前はなかったと思うんですけど、今はどうですか。

A 私が62年に大学に入った時、新疆大学にウイグル語クラスがあって北京から幹部の子供がそこに入ったことを知っています。64年か65年、私が新疆大学にいた時、新疆大学にウイグル語クラスがあって、そこに北京から幹部の子供が入っていて、その時中国人がウイグル語を勉強した。新疆大学の文学部にそういう中国語を勉強するコースとウイグル語を勉強するコースがあります。その人たちは、ウイグル語を勉強して通訳になるということです。

しかし、そのクラスがあとでやめたかなくなつたか私は分からないけど、ちゃんとウイグル語を

勉強するという意識はないかもしれません。ウイグル人もみんな中国語を話すから。それからホタンにいた漢民族、カシュガルにいた漢民族はカシュガル方言、ホタン方言で話します。最初はびっくりします。そこに長く50年代からいる人はものすごく上手に話します。正式に政府からウイグル語を勉強しなさいというものはないかもしれません。みんなが中国語で話をするべきということです。

Q ウイグル語で教育を行う大学というのは全然ないわけですか。

A 新疆大学が一度行ったんですけど、その時も1年の中国語勉強があったんです。それはちゃんと1年勉強するけど、専門に入った時ウイグル族にはウイグルの先生がウイグル語で授業をして行ったんですが、最近またちょっと変わった。中国語でも授業をするようになったらしいです。80年代、90年に入った時、ちゃんと新疆大学はウイグル語で授業を行ったんです。私が入った時、60、70年代は中国語で授業を行いました。

Q 新しい文字の話ですが、私なんかは右から書く文字がどれくらい不便か分からないものですからおとなしく伺うしかないんですが、あなたのお話では、続かなかったのはちょっと惜しかったと。主任さんの意見は、「世界の発展に追い付くには左からの方がいいんだ」というお話で、それも分からないではないんだけど、もし本当にそうなら前のキリル文字と同じではなくてもいいが、左から書くのにしてもいいように思うんです。みんな文化大革命の事情で飽きてしまったという気持ちも分かるんですが、さっきのお話だと惜しかったとおっしゃるんだけど、本当にそうか。ピンインの文字で、キリル文字でやっていくことがこれから先に果たして検討課題にあるのか。

文革のことで嫌になってしまったというのは分からないではないけど、もう1回ぐらいチャンスがあってもいいと思う。

A 私がどうしてああいう考えを持つのかというと二つ原因があります。一つは、文字改革委員会の主任が私にああいう説明をして、私は納得してしまったんです。もう一つは、トルコがモスタパカマルの時代に、文字改革を行った。それが新しい文字を入れた。短い間に普及された。何といっても、トルコの様子を見ると、私たちと同じ経緯なんですけど、あの人たちは世界に向かっていくのが速い。だから、モスタパカマルがやったそういう点を私はよく覚えているから、私たちにもトルコみたいに新しい文字が実行されたらいいのではないか。人類の発展というのはそういう政策を採らないと遅くなると思ったのです。

Q それは、あまり意味がないのではないかと思います。

A 意味がない？

Q 日本語だってローマ字論というのは昔からあったわけで、特にコンピューターなんかが入った時に日本語だと不利だとか何とかと言ったことがありましたけど、結局機械のほうがそれに追いついてほとんどそれが解決してしまったわけです。本当に、世界の動きと同じにして言葉をそれに合わせていこうとすれば、結局母国語を捨てて英語にする以外ないんです。

A そうですか。それは……（笑い）。

Q どんな文字を使っても、不便さとか不合理なものがない限り劣等感を覚える必要はないのではないかというふうに思います。

A そうでしょうか。

Q 右から書くのと左から書くのと、両方とも熟達した場合にどれくらい違うかということは僕は知りませんからそれで伺ったんです。

A ウイグル語が古い文字を使っているのは、私にとっては古い文字のほうがいい。しかし、いろいろなことがあって、いろいろ意見があって、やはり新しい文字に変わったほうがいいかなと自分が今そう思っています。しかし、90%の人が古い

文字がいいと言う。ただ、10%の人が新しい文字に変えたほうがいいのではないかという、コンピューターなんかこれからの関係で。しかし最近私の意見もちょっと変わったんです。

外語大で古いウイグル文字のソフトを作りました。東洋文庫に行ってそれを使いました。作った方は外語大のハヤシカヨコさんですが、私は留学生のためにコピーしてもらいました。私はちょっと分からないけど、何かひつのものがあり、それを入れたらその文字が右から出て来る。それを聞いて、やはりこの文字でいいのではないかと、(笑い) 最近そういう気持ちにも…。

Q 先生、モンゴル国もキリル文字、ロシア文字から元の文字に変わりました。

A 変わりましたか。

Q しかしあれは、あまりにも不便だということで、今また……。

Q 不便だというよりも器具がないんです。印刷も満足にできなければ、教えられる人もいない。文字そのものの問題よりも、モンゴルは今非常に普及に困っているんです。それは、むしろハード面で体制ができてないからできないということで、あれの不便さは漢字の不便さとそんなに違わないのではないのでしょうか。(笑い)

A 新しい文字の必要性というのはこういう点でしょうか。例えば、私たちは授業で数学を教える。例えば、教科書なんかを使って $A+B$ と書く。数学では言葉で説明を入れるんです。これは英語でこう書く。ウイグル語で新しい文字で $3 \times 4 = 12$ と、これはここで新しい文字でこう書くんです。しかし、今のウイグル語でこれをどこに書くかということで、続けるのがちょっと不便になったんです。だから、そういう点で新しい文字を入れたほうが、数学、理科の専門の分野で便利になるところがあったんです。例えば、化学で私たちは式を書く。それから、言葉で何とかと説明を入れるんです。その時ちょっと不便。

Q だけど、不思議なことにそういった数学を発達させたのはアラビアからなんです。古い文字を見る、うちの大学にアラビア語の専門の人がいるので聞いてみたら右からで、数学の式は昔の写本も全部左から書いている。化学式なんかも右から書く。だから、必然的に数学が発達するから左からやらなければいけないというものでもないんです。

A ないですけど、ちょっと不便なところが出てくるんです。何ととっても古い文字に戻ってしまった。これから、新しい文字に入るのは私たちの状態ではなかなかです。だから、これからそのまま行くかな。

留学問題について

Q 新疆の中国政府に対する要求の中の一つに留学生を増やすという目的の一つがあります。日本の、さっき言った私立大学、森本さんという人がかなり一生懸命やっています。それで、マリアさんを代表とするようにたくさんの方がおいでになった。あれは増やすという問題と、あとその辺の問題はどうなっていますか。緊張関係はあるんですか。

A 最近、何かちょっと……。もう12年になって、3年に1回契約を新しくするんです。去年も3年の契約が終わって、その時私立大学協会から新疆政府に、今まで私たちは学費が要らないということで受け入れてやってきました。ただ、政府から8万のお金を持ってきて各研究室に入る。ここで全然一銭もお金を払わない。そういうかたちでやってきたんですが、私立大学協会から、学生も増えているし、新疆も今国際化に向かってお金もいっぱい、旅行もどんどんはやっているから新疆政府も少し授業料ぐらい出してくれないかという意見があったそうです。それで、またちょっとやめさせるような話もこっちから出たんですけど、今の主席が直接都竹さんに会って、「これからも続け

てやるようにお願いします」とのべたそうです。今年多分4月に向こうの代表団がここに来るそうです。多分、ここで続けて契約をするのではないかとおもわれます。

始めた時は、1年に25人受け入れる。その20%, 5人が漢民族で、この政策は少数民族に対する受け入れなんです。そういうかたちで1年に25人受け入れると言ったけど、大学の事情が良くないからということで、私たちが来たときは14人、次の年が十何人ぐらい来て、そのあとだんだん少なくなって2年に1回来るようになっていく。そのおかげで、私費で来る道が広がっています。

1回は2年の契約で来てここで2年勉強して、みんな若い者だから大学院に入りたいという希望を持っているんです。私立大学協会との契約では大学院に入るという内容はないんです。だから、あの人たちは2年政府のお金で勉強して、それから自分が大学院に受験し、合格をとって帰り、2回目に私費で来ることにした。こういう場合が一番多いです。それから、あの人たちは私費で自分の兄弟や何かを呼んで、こういうことでいっぱい今道が広がっています。

Q さっきの話でアメリカへの留学生が若干増え始めた。大体どのぐらいですか。

A ドイツは少ないけど、アメリカ、カナダ、オーストラリアなどの国々に、最近中国国家教育委員会は留学生を派遣するようになっていく。それからフランスにも。一番多いのはアメリカとカナダ、オーストラリア。大体、全部で大体100人ぐらい。

Q アメリカは？。

A いや、全部ヨーロッパも入れて。アメリカが一番多い。

Q アメリカは2, 30人？。

A アメリカは40, 50人ぐらいでしょう。

Q これは、国費？私費？

A 国費もいるし、私費もいる。私費が多いかも。

Q 何をこの人たちは学ぼうとしていますか。コンピューターとかそっちの方面ですか。

A いや、自分の分野、自分の専門に。例えば、化学を勉強した、数学を勉強した、コンピューター、経済。アメリカに最初に留学したのは、文字、ウイグル語の文法のことで行った人が最初です。

Q 日本へ来た人は帰りますね。

A 帰ります。最近、就職したいという留学生もちょっと増えている。

Q 解放後来た漢民族の人がいっぱい新疆のほうにいます。知識人とか、あの人たちの子供たちは今の教育をどう受け止めているのでしょうか。

A 共産党が来て、新疆の教育や何かを発展させるために各大学の先生をお招きしたんです。その先生たちも今亡くなった。その子供たちもちゃんと漢民族の学校で勉強して今偉くなったようです。今、そういう知識人の子供は大体内陸、北京、広州、上海に行く傾向が一番多いそうです。そういう昔の知識人の子供たちは大体出てしまったかもしれません。

Q あと、建設兵団というか、完全に中国語専門の学校があるわけでしょう？

A 今、中国教育、少数民族教育と二つの教育体系があります。昔、学校も全部別々で、これは漢民族の学校、これはウイグルの族の学校というものだったんです。それを60年代、文化大革命のあと、ある学校は合併した。一つの学校で漢民族の学生もウイグルの学生もいる。それは特徴がある。漢民族が何かしたら私たちもまねをして、それをやったら発展が速くなるというアイデアでやった学校もあります。しかし、その学校の数はそんなに多くないです。

イスラム意識について

Q イスラム圏の留学の話なんですけど、80年代にちょっと行って、今止まっているみたいだという

ことで終わるようなにも思わないんですが、留学だけではなくて、メッカに行くというようなことも含めてイスラムの人と交流するということは、今の状況で最近どうなのか。

A 80年代の時、中央教育委員会からそういう計画を下ろしたんです。それで、それは国費で出たんですが、そのあとそのことをやっていないか、私はいつも外国にいるからちょっとはつきり分からないけど、あの時に周りの人が行ったことは分かっているけれど、最近はそのに行ったことがあるかしら。私は直接知らない。メッカに行くことがイスラムの望みだから、毎年政府が代表団を作って行かせるんです。そのほかにも申請して自由に行く道もあります。

Q 相当多いんですか。

A かなり多い。最近、どんどんイスラム化が強くなっています。イスラム認識が強くなっているんです。年を取ってからメッカに行きたいという人もいます。年を取った人が一番……。

Q あなた方のようなインテリはどうなんですか。やはり、イスラムなんですか。

A 私はウイグル人で、イスラムのイメージが強いです。イスラムのこと、例えばやり方なんか私は分からないんです。特に、私は礼拝を全然しません。時間もないし、本当に分からない。しかし、私は心の中で、「神様はいる。私は悪いことはしない。神様、助けてください」という祈りをするんです。

それから、ウイグルのイスラム知識というのは何かと、私はこっちに来てから考えたんです。例えば、お酒禁止、何禁止とイスラムというのはすごく厳しい。サウジアラビアに行ったらものすごく厳しかったそうですが、ウイグルでは自由で、お酒いっぱい飲んで、(笑い)そういうことをするんです。しかし、みんな自分はイスラムだとちゃんと思っているんです。それはちょっと不思議かな。

Q 遠くだからそうなんです。インドネシアもそうです。考えたって理由はないです。

Q あれは、肉も食べれるしお酒も飲める。

Q ちょっと話がずれますけれども、中国の文献を読んでますと、コーランの研究会を秘密でやってはならない、ちゃんと公式の場所とといいますか、公式のメデレッセでやるようにと、秘密にコーランの研究会を開いて地方民族主義をあおっているというようなことが書かれている文章を時々このごろ見るようになりました。

A 昔、文化大革命の前は、みんなが自分の仕事をしていて宗教の意識はそんなに濃くなかったんです。文化大革命が起こっている内にみんなが神様に近付いていったんです。その時代は、文化大革命というのは恐ろしかったので、その時から宗教の意識がすごく深くなってしまった。それで、あの時政府もばらばらで、正式に管理する所もなくなってから、ある人が自分の家でイスラムの学校を作ってそこでコーランを教えるということもあったんです。みんなが、子供にもコーランを勉強させたいと。昼は新しい学校にももちろん行かせるけど夜に。私はトゥルファンにいつも行っているからトゥルファンにコーランを教えるところがあることを知っている。文化大革命の時に始まって、そのあとだんだん広がって、宗教は自由だから政府もあんまりかかわっていないのですが、最近いろいろなことが起こっているから、宗教の問題で何か起こるかということで、政策で明言して違反の宗教行動はやめるようにという話も出ているんです。こういう宗教的な問題は文化大革命の時に広がっていったんです。

私がよく覚えているのは、私の父は98歳で亡くなりましたけど、文化大革命の前には仕事のためにそんなに宗教的な礼拝もしなかった。文化大革命が起こってから、あのことを見て怖がって、その時から父が宗教に打ち込んで、毎日礼拝して、泣いて神様に祈ってそういうふうになって、最後、

85年に私が日本に来た時に私たちはメッカに行かせた。それで、2年前に亡くなりました。

Q お父さんが一番悲しんだのはどういうことですか。

A あの時はモスクを壊されて、意外な恐ろしいことがいっぱいあったんです。人をばかにしたことなど。

Q あのころ、ちょっと僕が行った時に、イスラムの近くで豚を飼ったりしていた。豚をたくさん飼わせたかどうかはちょっと……。

A 豚に対する私たちの意識はものすごく堅いからどうしても……。

Q 何か起こったでしょう？

A 起こったか分からないけど、何かウイグル人が豚を食べるなんてできないことです。いくら説明してもそれだけできない。(笑い) ほかのことは何でもできるけど、それだけできない。

Q お父さんは偉い方だったんですか。

A いや、普通のパン屋さんでした。ウイグルでパンというのは、ヨーロッパのパンではなくてかまどで焼くパン(ナン)、それをずっと父がパン屋をやってきました。

(本稿は、1998年3月28日の第15回「21世紀シルクロード研究会」の報告からまとめたものである)



訂 正

1999年11月号 目次

誤：高原明生 21世紀アジア、大平洋の国際関係

正：高原明生 21世紀アジア、太平洋の国際関係